

各設問につき選択肢のうちから解答を一つ選びなさい。

1. ノーマライゼーションの父と呼ばれるのは？

1. ヒポクラテス
2. アンリ・デュナン
3. **バンク・ミケルセン**
4. ヘレン・ケラー
5. ナイチンゲール

2. ノーマライゼーションの実現を推進し、重度障害者にも社会参加の意識を高めるきっかけとなった 1981 年の国際障害者年のテーマはどれか。

1. 障害者の生活保護
2. 障害者の雇用確保
3. 障害者の政治参加
4. 障害者の段階的な参加と平等
5. **障害者の完全参加と平等**

3. ノーマライゼーションとして誤っているのはどれか。

1. **大規模収容施設の建設**
2. 交通機関のバリアフリー化
3. ユニバーサルデザインの導入
4. 市民への障害についての啓発活動
5. 職業センターの障害者用プログラム策定

4. IL 運動について正しいのはどれか。

1. 障害者の親たちの抗議行動から始まった。
2. 障害者の身体的自立を目指した。
3. 障害者の経済的自立を目指した。
4. 生活保護の拡充を目指した。
5. **社会の構成員としての参加を目指した。**

5. ユニバーサルデザインについて正しいのはどれか。

1. 使用法が複雑である。
2. **使用法の自由度が高い。**
3. 健常者には使いにくい。

4. 建造物には適用されない。

5. コストは考慮しない。

6. バリアフリーについて正しいのはどれか。

1. すべての人を対象とする
2. 低コストを求める。
3. **安全性を求める。**
4. 点字や手話通訳の普及は含まれない。
5. 障害者に対する差別の撤廃は含まれない。

7. バリアフリー新法の内容に含まれていないのはどれか。

1. 車椅子と人がすれ違える廊下幅の確保
2. 車椅子使用者用の客室の設置
3. 車椅子使用者用の駐車場の確保
4. **介助犬の待機場所の確保**
5. 目の不自由な人でも利用しやすいエレベーターの設置

8. 以下の法律の制定年で誤っているのはどれか。

1. 身体障害者福祉法：1949 年
2. **理学療法士及び作業療法士法：1949 年**
3. 老人福祉法：1963 年
4. 老人保健法：1983 年
5. 介護保険法：2000 年

9. 老人保健法の内容について誤っているのはどれか。

1. 老人医療費支給制度の廃止
2. 国、自治体、医療保険者による老人医療費の分担
3. 壮年期からの疾病予防・健康づくり対策
4. **老人福祉施設の創設**
5. 機能訓練事業

10. 我が国の医療保険制度について誤っているのはどれか。

1. 国民皆保険制度である。
2. 診療報酬上の1点は10円に相当する。
3. DPCは医療費の定額払い制度である。
4. 請求した診療報酬がすべて認められるわけではない。
5. リハビリテーションに関しては混合診療が認められている。

11. 医療保険における運動器リハビリテーションの算定上限日数はどれか。

1. 30日
2. 90日
3. 150日
4. 180日
5. 1年

12. 予防医学において一次予防はどれか。

1. 早期治療
2. 人間ドック
3. 健康診断
4. 健康教室
5. リハビリテーション

13. 特定健康診査について誤っているのはどれか。

1. 対象となる年齢は40歳以上75歳未満である。
2. 都道府県が実施する。
3. 通称メタボ健診と言われている。
4. 健診結果により特定健康指導が義務付けられている。
5. 受診率が低い場合、保険者にペナルティがある。

14. 介護保険法の考え方として重視されているのは以下のうちどれか。

1. 家族による介護
2. 公設介護施設の建設
3. 市町村による介護プランの作成
4. 入所型施設サービス
5. 予防とリハビリテーション

15. 介護保険制度で誤っているのはどれか。

1. 20歳以上の全国民が加入する。
2. 給付には介護給付と予防給付がある。
3. 要支援は1と2, 要介護は1から5に分けられる。
4. 被保険者は第1号と第2号に分けられる。
5. 保険給付を受ける場合、被保険者は市町村に認定の申請を行う。

16. 介護保険下での介護サービス、介護予防サービスに要する費用の自己負担率は原則どれか。

1. 0割
2. 1割
3. 3割
4. 5割
5. 7割

17. 介護保険法で定める特定疾病に含まれないのはどれか。

1. 多発性硬化症
2. 脳卒中
3. 脊髄小脳変性症
4. 慢性閉塞性肺疾患
5. 関節リウマチ

18. 要介護状態に至る原因で最も多いのはどれか。

1. 脳血管疾患
2. 悪性新生物
3. 高齢による衰弱
4. 関節疾患
5. 心疾患

19. 以下のうちサルコペニアの可能性が最も高いのはどれか。

1. 握力 30kg の男性
2. 握力 20kg の女性
3. 歩行速度 0.5 m/秒
4. BIA 法による筋量が 7.5 kg/m² の男性
5. 指輪つかテストで囲めない。

20. 87歳の女性。脳卒中による重度の右片麻痺。回復期リハビリテーション病棟に入院中。座位での基本動作は自立。認知機能は保たれている。短下肢装具と4点杖で5mまでは自力での歩行が可能。介助があればT字杖で20m程度の歩行は可能。ここ2ヶ月は状態に大きな変化はみられない。最近、介護老人保健施設への退院が決まった。退院後の生活上の移動手段で実用的なのはどれか。

1. T字杖を使用した介助歩行
2. 4点杖を使用した自力歩行
3. 4点杖を使用した介助歩行
4. 手すりを利用した自力歩行
5. 車椅子

21. 回復期リハビリテーション病棟退院後の片麻痺患者に対して訪問リハビリテーションが導入された。リハビリテーションの目標で優先度が低いのはどれか。

1. 非麻痺肢の筋力維持
2. 麻痺肢の関節可動域制限の予防
3. 麻痺肢の運動麻痺の改善
4. 閉じこもりの予防
5. 移動能力の維持

22. 通所リハビリテーションについて正しいのはどれか。

1. 医療保険での利用はできない。
2. 個別訓練は提供できない。
3. 3ヶ月以内の短期的利用に限られる。
4. 通所リハビリテーション専用の設備基準はない。
5. 利用者20名に対する療法士の配置基準は1名である。

23. 介護保険制度での住宅改修について正しいのはどれか。

1. 要支援者は利用できない。
2. 法定代理受領方式（現物給付）である。
3. 手すり設置に利用できる。
4. 改修費の上限は100万円である。
5. 自己負担はない。

24. 地域包括ケアシステムで特に重視されるのはどれか。

1. 自助の軽減
2. 互助の推進
3. 共助の拡充
4. 要介護度の細分化
5. 国を主体とした取り組み

25. 地域包括支援センターについて正しいのはどれか。

1. 都道府県が設置する。
2. 要介護者を対象とする。
3. 理学療法士の配置は必須である。
4. 介護予防事業のマネジメントを行う。
5. 通所リハビリテーションの役割を担う。

26. 「特養」または「特老」と通称される施設は以下のうちどれか。

1. 有料老人ホーム
2. グループホーム
3. 介護療養型医療施設
4. 介護老人保健施設
5. 介護老人福祉施設

27. 以下の施設のうち、廃止が予定されているものはどれか。

1. 介護療養型医療施設
2. 介護療養型老人保健施設
3. 介護老人保健施設
4. 介護老人福祉施設
5. 有料老人ホーム

28. 以下の説明文に相当するものはどれか。「食事や入浴などの日常生活上のケアや、個別リハビリテーション、グループ活動を通して、居宅から施設に通う利用者の活動性の向上、生活範囲の拡大、生活機能向上を図る。閉じこもり防止や社会交流、家族負担の軽減、介護予防にも働きかける。」

1. ショートステイ
2. 訪問リハ
3. デイケア
4. デイサービス
5. 保護入院

(不適當問題です。全員正解とします。)

29. 生活援助員（LSA）が見守りや生活相談に対応してくれる公的賃貸住宅はどれか。

1. 軽費老人ホーム
2. 認知症高齢者グループホーム
3. ケアハウス
4. シルバーハウジング
5. 介護老人保健施設

30. 災害リハに関する考え方で誤っているのはどれか。

1. 発災による健康被害発生や重症化防止を重視する。
2. 支援対象は医療・介護保険制度の対象者に限られる。
3. 被災地域スタッフを休ませるために代替業務を行うことも支援の一つである。
4. 食事や宿泊場所の確保は原則自前で行う。
5. 専門性に固執しない。

各設問につき選択肢のうちから解答を一つ選びなさい。

1. 障害者の住宅事情に関して誤っているのはどれか。
 1. 施設入所の障害者より在宅障害者の方が多い。
 2. 在宅の身体障害者では 60%以上が 65 歳以上の高齢者である。
 3. 借家より持ち家の方が多い。
 4. 住宅改修の場所としては、台所が最も多い。
 5. 住宅改修の希望があるにもかかわらず、改修できない理由一番の理由は、資金不足である。
2. 障害者の住環境整備を考える上で正しいのはどれか。
 1. まずは住宅改修を一番先に検討する。
 2. 同居家族のことを考える必要はない。
 3. 方針の決定者はあくまで相談者である。
 4. 将来の障害変化は考える必要はない。
 5. 費用補助は十分にあることが多いので、費用について考える必要はない。
3. 1/12 のスロープ勾配は傾斜角度にして、何度に相当するか。
 1. 約 1°
 2. 約 2°
 3. 約 3°
 4. 約 4°
 5. 約 5°
4. 高低差 450mm に対して、勾配 1/12 のスロープを設置したい場合、必要な水平距離はどれか。
 1. 2700mm
 2. 4050mm
 3. 5400mm
 4. 6750mm
 5. 9000mm
5. 建築用語「根太」の読み方で正しいのはどれか。
 1. ねぶた
 2. ねぶと
 3. ねだ
 4. こんぶと
 5. こんだ
6. 「根太」を支える横木を何というか。
 1. 束
 2. 大引
 3. 母屋
 4. 筋交
 5. 垂木
7. 建築基準法で原則として定められている床高はどれか。
 1. 50mm 以上
 2. 100mm 以上
 3. 150mm 以上
 4. 300mm 以上
 5. 450mm 以上
8. 畳の大きさの比較で正しいのはどれか。
 1. 京間 > 中京間 > 江戸間 > 団地間
 2. 中京間 > 京間 > 江戸間 > 団地間
 3. 江戸間 > 中京間 > 京間 > 団地間
 4. 江戸間 > 京間 > 中京間 > 団地間
 5. 団地間 > 江戸間 > 中京間 > 京間
9. 以下の手すりに関する記載のうち正しいのはどれか。
 1. 一般的にグラブバーはハンドレールより太い。
 2. 手すりの高さは 1m が基本である。
 3. 手すりの断端にはエンドキャップを取付ける。
 4. 手すりの受け具を間柱に取り付けけない。
 5. 石膏ボードの壁面では補強材を入れなくても手すりを取付けられる。

10. 以下のトイレに関する記載のうち正しいのはどれか。
1. 便座の立ち座り時に、体の前方に必要な空間は、和式より洋式のほうが広い。
 2. 標準洋式便器の便座高さは、約 500mm ほどである。
 3. 原則として、排泄姿勢の安定性よりも立ちあがりやすさに配慮して、便座高さを設定する。
 4. 便座からの立ち上がり動作用の縦手すりの設置位置は、ちょうど便座先端に合わせるとよい。
 5. 省スペース便器ユニットは、標準型便器より前方または前側方から車椅子が近づきやすい。
11. ユニットバスについて誤っているのはどれか。
1. FRP（繊維強化プラスチック）製である。
 2. 防水性にすぐれている。
 3. 工事期間が短縮できる。
 4. 後から容易に手すりを取り付けることができる。
 5. 出入口の段差が比較的大きい。
12. 適切でない組み合わせはどれか。
1. パーキンソン病：松葉杖
 2. 脳性麻痺（痙直型両麻痺）：ロフトランド杖
 3. 脳卒中（片麻痺）：T 字杖
 4. 関節リウマチ：プラットフォーム杖
 5. 脊髄損傷：交互型歩行器
13. 標準型車椅子使用者者の生活環境として適切なのはどれか
1. トイレのドアは内開きにする。
 2. 屋外スロープの勾配は 1/10 とする。
 3. 浴室と脱衣所の上にグレーチングを設置する。
 4. 洗面台のカウンターの高さは 50cm 程度とする。
 5. 玄関前の回転スペースは直径 90cm 程度とする。
14. 片麻痺用車いすについて誤っているのはどれか。
1. 自走用標準型より座面が低い。
 2. 麻痺側のハンドリムを取り外せるので、自走用標準型より幅が小さくなる。
 3. 通常、健側のフットサポートを外してある。
 4. 自走用標準型よりも走行中の揺れ幅が小さい。
 5. 自走用標準型車いすよりも要する通行幅員は大きい。
15. リフトに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。
1. 固定式リフトの設置では、屋内改造の必要はほとんどない。
 2. 据置式リフトの設置では、天井面の補強工事は不要である。
 3. 床走行式リフトの使用に際しては、段差がある環境では危険である。
 4. 天井走行式リフトは操作性がよく、介助の大幅な軽減が可能である。
 5. リフトから便器に移乗する際、リフトから体を下ろす中心の位置は、便器の先端に合わせる。
16. 段差解消機について誤っているのはどれか。
1. 車椅子では使用できない。
 2. スロープと比べて狭いスペースに設置が可能である。
 3. パンタグラフ式では床にピットを設けることによりテーブル面と床との段差を解消できる。
 4. 既存建築物に、後から単体で設置する場合、確認申請を必要としない。
 5. 階層をなす建築物の上下階移動には用いられない。
17. 固定型（椅子式）階段昇降機について誤っているものはどれか。
1. 利用者には安定した座位保持能力が必要である。
 2. レールを取り付けるために壁の補強工事が必要である。
 3. チェーンプロケット（チェーンラック式）は、主に直線階段に使われている。
 4. 直線階段と比べ、曲線階段では納入に時間がより必要となることが多い。
 5. 設置可能な最大傾斜角度（勾配）は 55 度程度である。

18. 個人住宅用エレベーターについて誤っているのはどれか。

1. 最大昇降行程は 10 m 以下である。
2. **最大定員は 4 人である。**
3. かごの床面積は 1.1 m² 以下である。
4. 玄関の外に設置できない。
5. 同一階での通り抜けはできない。

19. 85 歳の女性。ADL に一部介助が必要だが、屋内歩行はつたい歩きで自立している。3 か月前に机に手をつけて床から立ち上がろうとした際に転倒したが、骨折には至らなかった。自宅の住環境に関する助言として適切なものはどれか。

1. 敷居の段差に同系色のテープを貼る。
2. **階段や浴室に滑り止めマットを敷く。**
3. 夜間の照明は視線の高さに設置する。
4. トイレの開き戸をカーテンに変更する。
5. 必要な者は手の届く範囲の床上に置く。

20. 82 歳の女性。1 人暮らし。2 階建て住居の 1 階にある居室でベッドを使用していた。敷居につまずき転倒し、大腿骨転子部骨折を受傷した。骨接合術後、屋内歩行は自立し、屋外歩行は T 字杖にて 5 分程度可能となった。自宅に退院するにあたり適切なものはどれか。

1. 敷居の高さは 5 cm に統一する。
2. 居室にじゅうたんを敷く。
3. **玄関に手すりを設置する。**
4. スリッパを使用する。
5. 寝具は床に敷く。

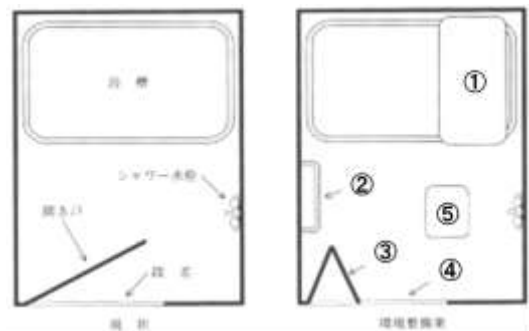
21. 脳卒中片麻痺患者が入浴する際の指導の組み合わせで適切でないのはどれか。

1. 非麻痺側上肢の洗体：吸盤つきブラシを使用する。
2. シャワーの使用：非麻痺側で水温を確認する。
3. タオル絞り：蛇口に巻きつけねじる。
4. **浴槽内への移動：麻痺側下肢から浴槽に入る。**
5. 浴槽内での座位保持：滑り止めテープを使用する。

22. 75 歳の男性。脳卒中による左片麻痺。ブルンストローム法ステージは上下肢とも III。屋内はプラスチック製短下肢装具装着で歩行。屋外は車椅子で移動することで退院計画を立てることになった。住宅改造の指導で適切でないのはどれか。

1. 廊下に横手すりを設置する。
2. 上がり框に L 字型手すりを設置する。
3. 玄関口と上がり框の間に座れる椅子を置く。
4. 玄関の出入り口の段差にスロープを設置する。
5. **廊下に毛足の長いじゅうたんを敷き詰める。**

23. 75 歳の男性。脳卒中による左片麻痺。発症後 6 ヶ月経過。Brunnstrom 法ステージは上肢、下肢ともに III。AFO と T 字杖で屋内歩行は自立している。自宅浴室の現状の見取り図（左）と環境整備案（右）とを図に示す。環境整備案のうち最も必要性が低いのはどれか。



1. ①バスボードの利用
2. **②手すりの設置**
3. ③折り戸への変更
4. ④段差の解消
5. ⑤シャワーチェアの利用

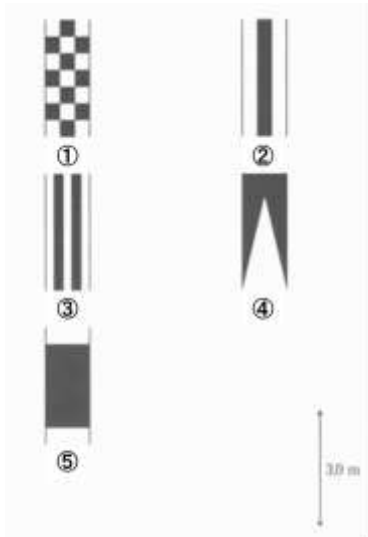
24. 60 歳の独居女性。関節リウマチを発症し 15 年経過。両股関節は人工関節置換術を行っているが屋内歩行は自立している。手指の変形が著しく、関節痛が強い。この患者のための住環境整備について適切でないのはどれか。

1. ドアノブ用自助具を利用する。
2. 居室の段差を解消する。
3. 自動洗浄便座を設置する。
4. 買い物に電動車椅子を利用する。
5. **浴室にリフトを設置する。**

25. 60歳の男性。10年前にパーキンソン病と診断された。日常生活は自立している。すくみ足のため自宅で頻回に転倒するようになった。この患者に対する指導で適切なものはどれか。

1. 自宅内ではスリッパを履くよう勧める。
2. 足関節に重錘バンドを装着する。
3. T字杖歩行を指導する。
4. 玄関前のアプローチはスロープとする。
5. 自宅での手すり設置の場所を指導する。

26. 50歳の男性。Parkinson病。発症後5年を経過、すくみ足が出現し、自宅で頻回に転倒している。転倒予防として自宅の廊下に模様を入れる際に効果的な図柄はどれか。



1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

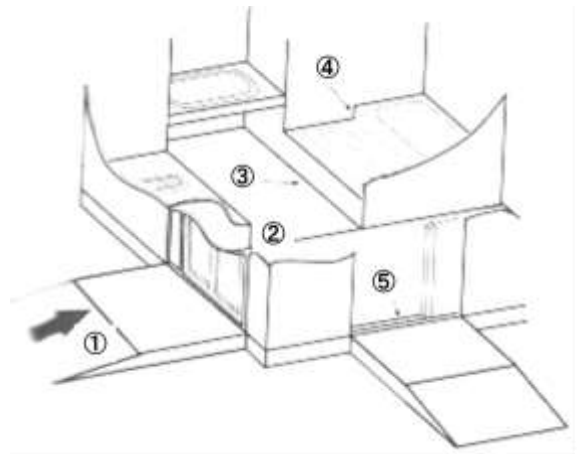
27. 座位移動レベルにある筋ジストロフィー患児のための住環境整備について適切でないのはどれか。

1. アプローチは電動車いす対応にする。
2. 上がり框に段差解消機を設置する。
3. 廊下や部屋の床に柔らかい毛足の長いカーペットを敷きつめる。
4. 動作能力によっては、家族と洋式便器を兼用できる。

5. 浴室の洗い場には弾力性のあるマットを敷きつめる。

28. 22歳の男性。頸髄損傷(第6頸髄節まで機能残存)。車椅子は床から390mmの座面に100mmの低反発素材のクッションを使用している。移乗は、車椅子から前・後方移動で自立し、ADLは環境整備の上で自立が見込めるようになった。一人暮らしを目的にした住宅改修を図に示す。正しいのはどれか。

1. ①入口のスロープ傾斜を1/8とした。
2. ②便器の高さを床から400mmとした。
3. ③移乗の車椅子操作のために回転半径を600mm確保した。
4. ④浴槽のふちの高さを洗い場から150mmとした。
5. ⑤テラスへの出入り口は埋め込みレールとした。



29. 脊髄損傷患者(第10胸髄節まで機能残存)の住宅改修について適切でないのはどれか。

1. ドアの開口部は90cmとする。
2. スロープの勾配は1/6とする。
3. 便器側面の壁に移乗用の横手すりを設置する。
4. 便座の高さは車椅子のシートの高さに合わせる。
5. 電灯のスイッチは床から90~100cmの高さにする。

30. 10歳の男児。脳性麻痺痙直型両麻痺。床上移動は交互性の四つ這いで自立している。移乗はてすりにつかまれば、かろうじて自力で可能である。主な移動手段は車椅子である。車椅子の作成で正しいのはどれか。

1. 座面高さは患児の大転子の高さとする。
2. フットレストはスイングアウト式とする。
3. 座幅は成長を見越して広くする。
4. 背もたれはリクライニング式とする。
5. 背もたれの高さは肩の高さまでとする。